



Title	天貝義教先生を悼んで
Author(s)	谷本, 尚子
Citation	デザイン理論. 2025, 85, p. 1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100266">https://doi.org/10.18910/100266</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 天貝義教先生を悼んで

谷本尚子

天貝義教先生が2024年4月25日にご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。先生が意匠学会にとって得難い人材であったことを、ここに改めてお伝えしたいと思います。

天貝先生と初めてお会いしたのは、意匠学会大会の懇親会の時と記憶しています。藤田治彦先生から、高名な阿部公正先生のお弟子さんだとしてご紹介していただきました。天貝先生はすでに秋田公立美術工芸短期大学（現・秋田公立美術大学）にお勤めになっていたと思います。凄い人が来られたなど、少し眩しい気持ちでお話したことを覚えています。

1999年と2000年に藤田先生が主催された「国際デザイン史フォーラム」では、多くの意匠学会の会員が研究発表をされ、その成果は『国際デザイン史 ― 日本の意匠と東西交流 ―』（2001年）として刊行されましたが、天貝先生のご論考「ウィーン万国博覧会プログラムと日本語「美術」」もそこに収められています。その後も先生は、主に近代日本のデザイン思想史のご研究を広い観点から展開しながら意匠学会でご活躍され、2021年度には、論文「1911年トリノ万国博覧会と平山英三」で意匠学会論文賞を受賞されました。この受賞論文は、2013年第55回意匠学会福井大会でのシンポジウム「デザイン史をどう教えるか？」におけるご報告に基づくもので、更に言えば、「国際デザイン史フォーラム」で取り上げられた1873年のウィーン万国博覧会への日本の参加に関する研究や平山英三による応用美術論の翻訳へと議論の対象を広げたものです。またこれらのご研究の背景には、緒方康二先生との長きにわたるご交流がありました。

2017年度から2023年度まで学会賞選考委員として意匠学会の運営にもご協力いただきました。

思い出深いのは、天貝先生が実行委員長となって、2017年8月9日と10日に秋田市にぎわい交流館にて開催された第59回の意匠学会大会でした。恐らく意匠学会としては最北の開催だったと思います。大会のシンポジウムでは、天貝先生を中心に秋田の手仕事・環境・歴史などに焦点をあてながら幅広い話題を提供していただきました。またここで個人的な思い出の一つを加えさせていただくと、秋田大会の際、天貝先生との雑談の中で、息子さんが高校野球でご活躍されていると嬉しそうにお話になっておられた時の優しい笑顔を忘れることができません。

天貝先生に出会えたことを、心から感謝申し上げます。